

2018年12月号

国民民主党千葉県第10区総支部

〒287-0001 千葉県香取市佐原口 2164-2
TEL:0478-54-5678 FAX:0478-52-6991
Mail:info@hajime-yatagawa.com
HP:www.hajime-yatagawa.com

【谷田川はじめ略歴】

1963年1月17日香取市生まれ
千葉県立佐原高校卒業
早稲田大学政治経済学部卒業
千葉県議会議員4期連続当選
衆議院議員1期当選・松下政経塾出身

【現在】国民民主党千葉県第10区総支部長
千葉県ハンドボール協会会長



野党の役割は、与党が拾わぬ 民の声をすくい上げること

平成30年も間もなく幕を閉じようとしています。皆様にとってこの1年はどのような年だったでしょうか？恒例の世相を表す漢字一字が「災」と発表されました。2月に北陸の豪雪、6月に大阪北部地震、7月に西日本豪雨、9月に北海道地震や台風21号が発生するなど災害が相次いだことが、「災」が選ばれた理由と思われる。一方、政治の世界においても将来に大きな「災」をもたらすような出来事が多かったと言わざるを得ません。

通常国会が終わった直後の7月31日、大島衆議院議長が異例の所感を発表しました。その中で、大島議長は「(1)財務省の森友問題をめぐる決裁文書の改ざん問題や(2)厚労省による裁量労働制に関する不適切なデータの揭示、(3)防衛省の陸上自衛隊の海外派遣隊の日報に関するずさんな文書管理などの一連の事件はすべて、法律の制定や行政監視における立法府の判断を誤らせる恐れがあるものであり、立法府、行政府相互の緊張関係の上に成り立っている議院内閣制の基本的な前提を揺るがすもの」と述べ、3省

を名指しし強く非難するとともに、行政府に猛省を促しました。

にもかかわらず臨時国会では、入管法改正案をめぐり、失踪した外国人技能実習生の実態調査結果の集計を法務省が誤っていたことが明らかになり、議長所感が無視された形となりました。

入管法改正案では外国人労働者の受け入れ数や対象業種などを法案成立後に定めるとしており、野党の質問に対しても「検討中」と繰り返すなど政府が政省令で勝手に決めさせてもらうとの態度がありありでした。そして同法案が衆院を11月27日に通過しました。こうした状況に業を煮やした大島議長は、与野党国対委員長を呼び、またも異例の発言をしました。来年4月の同法施行前に政省令を含めた法制度の全体像を政府に報告させたいと法務委員会で質疑するよう求めたのです。事実上の議長による「裁定」です。

このように、今年には将来の「災」となるような政府・与党の暴走を許してしまいました。その一番の理由は野党が非力だからと言わざるを得ません。

米国政治学の泰斗と言われたロバート・ダール イェール大学名誉教授（2014年に98歳で死去）は『「野党」は「選挙権」「議会制」と並ぶ民主主義の三大発明であり、与党が拾わぬ民の声をすくい上げる「野党」という機能は民主主義に欠かせない』と述べています。

そう考えると、先の臨時国会における外国人受け入れ拡大を目指す入管法改正案は、野党の側からもっと早い段階で提案すべきだったと言わざるを得ません。少なくとも人手不足が深刻であることは3年以上前から分かっていたことです。しかし、安倍総理は移民政策を取らないと言ってきた経緯があり、その声をぎりぎりまで吸い上げようとしませんでした。

与党が拾わぬ民の声をしっかりすくい上げることを肝に銘じ、今後の活動を展開していく所存です。